



マンガや小説、フィクションの世界で活躍する主人公たちは、何度も世界を救っています。そんな世界を救った英雄は、いったい、その時何歳だったのでしょうか？
自分の年齢と重ねてみると、ちょっとワクワクしますね。

『Dragon quest ダイの大冒険』

13才：ダイ ⇒ 大魔王バーンを倒し世界を救う。

『鬼滅の刃』

15才：竈門炭治郎 ⇒ 鬼舞辻無惨を倒し日本を救う。

『NARUTO-ナルト-』 & 『ハリー・ポッターと死の秘宝』

17才：うずまきナルト ⇒ カグヤを封印し世界を救う。

ハリー・ポッター ⇒ ヴォルデモート卿を倒し魔法界を救う。

『月の影 影の海』（「十二国記」シリーズ）

高1？：中嶋陽子 ⇒ 王となり「慶の国」を救う。

『サマーウォーズ』

高2：小磯健二 ⇒ ラブマシーンを止め仮想世界「OZ」を救う。

他にもたくさんの英雄がいるので、いろんな本の中からさがしてみてください!!

さすがは勇者！
討伐まで数ヶ月

仲間とともに
無血の革命！

トショブラ♥ ～自由学習スペース～

本がずら～っとならんでいる閲覧室の机やイスは、図書館の資料を使って読書や調べものをするためのものですが、それとは別にそれぞれの図書館には「自由学習スペース」という場所があります。そこでは問題集や参考書を持ち込んでの自主学習がOK！勉強の合間に飲み物を飲んでもOK！静かな環境で集中して勉強したい時は、図書館の「自由学習スペース」を利用してください！

発行：甲賀市図書館

水口図書館：63-7400 土山図書館：66-1056

甲賀図書館情報館：88-7246 甲南図書交流館：86-1504

信楽図書館：82-0320

ホームページ：http://lib.city.koka.lg.jp/

ホンマニ！

HONMANTA

vol.15

2022. Summer-Autumn

Koka City Library

ヤングアダルト（Young Adult）とは、13歳から19歳の世代の人たちに対して使われている言葉で、「若いおとな」という意味です。甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ！』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

私とあの子の新しい関係

おすすめ この1冊

『ブラザーズ・ブラジャー』

佐原ひかり／著 河出書房新社



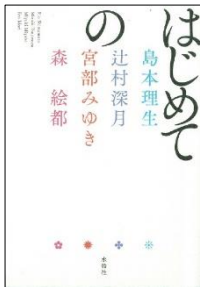
父の再婚で新しい母と中2の弟・晴彦ができた高1のちぐさ。ある日、晴彦がブラジャーを着けているところに遭遇し、てっきり、身体の性と心の性に違和感がある性同一性障害なのかと思ったのだが、どうやらそうではないらしい。ブラジャーのデザインや刺しゅうにひかれて、ファッションでつけているのだと言う。ちぐさは、理解できないと思いつつ、晴彦を傷つけないように振る舞うのだが、友達の前ではそうはいかなかった。

今さら、新しくできた弟とうまくやっていけるのだろうか？ これまでに充分、傷ついてきたであろう晴彦を、もう傷つけないと思うちぐさ。それは、ちぐさ自身も傷つきたくない、傷つけられないくないという気持ちの現れだった――。

●小説×音楽×映像で、物語の世界はどこまでも広がる！

『はじめての』

島本理生、辻村深月、宮部みゆき、森絵都／著 水鈴社



4人の直木賞作家の物語を、Y O A S O B I が楽曲化するプロジェクトから生まれた短編集。テーマは「はじめて〇〇したときに読む物語」。人を好きになったとき、家出したとき、容疑者になったとき、告白したとき…。

“はじめて”は痛くて切なくて、戸惑い、失敗もする。けれど思い切って踏み出した先には、小さな希望が芽吹き、きっと前に進んでいるはず——。

現在2曲が公開中の楽曲を聴きながら、ぜひ物語の世界に浸ってみませんか？

●新たな世界を切り拓く

『ななみの海』

朝比奈あすか／著 双葉社



高校生のななみは、親と一緒に暮らせない18歳以下の子どもたちの施設（児童養護施設）で育つ。隠しているわけではないけれど、施設で暮らすことを友達に話せないでいる。最近、そのことがななみの心を占めだし、葛藤といらだちでいっぱい。友達だから、全部言わなきゃならないんだろうか？ だけど、その友達にもそれぞれの言えない事情があって……。

進学とその費用、友達、彼、施設の仲間、過去のつらい記憶、そして、自分の将来。ななみは様々なことに向き合いながら、自分の一步を漕ぎ出してゆく。

●戦争は誰彼構わず襲い掛かる目の見えない野獣

『13枚のピンぼけ写真』

キアラ・カルミナーティ／作 関口英子／訳 岩波書店



戦争の話は戦地に行く男性たちにピントを合わせたものが多いですが、この物語は13歳の女の子イオランダに焦点をあてて、第一次世界大戦の北イタリアを映し出しています。家族と引き裂かれ、妹と一緒に母の知り合いの元に行き、そこで今まで知らなかった祖母の存在を知った2人は…。

理不尽に普通の生活を奪っていく戦争は、現在でも世界で起こっています。戦争が始まった時、自分にどんな事が降りかかるのか考えさせられる1冊です。

●16歳の今、伝えたい言葉がある

『16歳の語り部』

雁部那由多ほか／語り部 佐藤敏郎／案内役 ポプラ社



2011年3月11日に起こった東日本大震災。

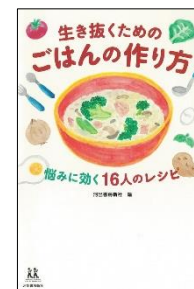
あの日、小学5年生だった子どもたちが5年経って高校生となり、「若き震災の語り部」となって活動を始めました。あの日を「つらい過去」のままにせず、そこから立ち上がって何を思い、何に迷い、何を学んだのか。彼らの語る言葉には、大人の目線とは違う、リアルな16歳の気持ちがいっぱい詰まっています。

希望に向かってなんとか踏み出そうとする彼らの思いに、同年代のあなたはきっと共感できるはずです。

●失敗してもカレーにしちゃえば大丈夫！

『生き抜くためのごはんの作り方』

河出書房新社／編 有賀薫ほか／著 河出書房新社



さまざまなメディアで活躍中の料理家たちが料理への思いをエッセイにしたため、その中でレシピをひとつずつ紹介しています。試験に落ちたり、失恋したり、試合に負けたり、と食欲がなくなるようなことがいっぱい起こる毎日。でも、食べることは生きること。自分の身体と心は自分が食べたものでできているのです。ぜひ、この本で紹介されている“心の悩みのためのレシピ”を試してみてください。きっと、新たな元気が湧いてくることでしょう。

●稲妻は幻想的で美しい

『稲妻と雷の図鑑』

吉田智／編著 グラフィック社



近年、異常気象が続く、いつ天気が悪くなるかわからない日本。稲妻や雷を見る機会も多いのではないのでしょうか。そんな稲妻や雷について、発生の仕組みや種類など、最新の研究成果が美しい写真と共に説明付きで分かりやすく紹介されています。

雷は怖いという印象を持っている人もいるかもしれませんが、この本を読めば、稲妻や雷に対しての見方が変わるかもしれません。